平成２６年度東部５地区まちづくり集会開催記録（概要）

◎日　　　時　平成２６年８月３１日（日）１４：００～１６：００

◎場　　　所　小月公民館　講堂

◎参加団体数　３８団体

王司地区自治連合会、王司小学校ＰＴＡ、東部中学校ＰＴＡ、王司婦人会、王司商工振興会、王司老人クラブ連合会、ＪＡ下関王司支所支部女性部、山口県漁業協同組合王司支店女性部、清末地区快適環境づくり推進協議会、清末自治連合会、清末小学校ＰＴＡ、清末商工振興会、清末第一清寿会、清末地区民生児童委員会、東部校区青少年健全育成協議会、清末ふるさとまちづくり推進協議会、小月自治連合会、小月婦人会、小月商工振興会、小月地区民生児童委員協議会、小月地区社会福祉協議会、消防団小月分団、小月地区ふるさとまちづくり協議会、王喜自治連合会、王喜自治連合会、東雲自治会、下関市スポーツ推進委員、王喜スポーツコミュニティクラブ、土地改良区王喜地区運営委員会、王喜地区民生児童委員協議会、吉田地区自治連合会、吉田地区スポーツ振興会、吉田地区民生児童委員会、吉田消防分団、吉田放課後子ども教室(アメンボ)、吉田観光協会、吉田ファーム、吉田地区まちづくり懇談会

◎市出席者　市長　中尾友昭

総合政策部部長：三木潤一、総合政策部政策調整監：星出恒夫

総合政策部地域支援課課長：安田成興、主任：齋藤浩三

王司支所長：原田洋、清末支所長：田中利秋

小月支所長：岩本早千男、王喜支所長：沖吉洋一郎

吉田支所長：末冨祥生

◎傍　聴　者　４名

◎次　　　第

１	開　　会	１４：００
２	市長講話（私が考えるあらたなまちづくり）	１０：００～
３	あらたなまちづくりに関する意見交換	１４：１５～
４	下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案）及び全体スケジュールの説明	１４：３０～
５	推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換	１５：１０～
６	閉　　会	１６：００

◎まちづくり集会開催の目的

住民自治によるまちづくりを推進するため、その基本となるまちづくり推進計画の策定等に関し、広く地域住民の意見を聴取する場として、それぞれの地域において「まちづくり集会」を開催します。併せて、それぞれの地域における住民等のまちづくり活動に対する機運の醸成を図ることを目的とする。

◎まちづくり集会開催

開式のことば

出席者紹介

◎市長講話

私が考えるあらたなまちづくり

～別紙：市長講話の概要参照～

◎あらたなまちづくりに関する意見交換

参加者　市長がお金を出すと言われたこと、大変ありがたいと思う。ただ、男女共同参画時代であるから、このような集会も女性のための女性によるまちづくり集会、それとキッズのためのキッズによるまちづくり集会を年に１度で良いので開催していただき、自治連合会がオブザーバーとなるような会議なども検討して欲しい。

市　長　次回は女性の方や子どもさんのことも考えてみたいと思います。

参加者　今日は東部５地区の代表が出席しているが、東部５地区全体で同じような立場で話し合える場があれば、違った方向で話が進んで行くと思う。今後、東部５地区の組織作りを検討していきたいと思うので市にも知恵を貸して欲しい。

市　長　組織づくりは、市ができることがあればお手伝いする。規約は皆さんで作っていただくが、モデル的なケースは標準パターンとして示し、設立にも財政的支援を考えている。

参加者　地域の住民の意識をどのように変えて行くかが大事であると思う。まちづくりについてもまちづくりをしようという意識づくりをすることが大切であると思う。

市　長　真にそのことに力を入れていきたいと思います。

参加者　東部５地区は、昔から小月駅を中心に発展してきたが、今、小月駅周辺は、寂れてきたのでこれを解決していかないといけないと思う。皆がまとまっていく必要がある。

市　長　山陰自動車道が小月に繋がるよう国へも要望しているので、山陰側の賑わいも小月に伝わる。小月駅からバイパスまでの道路を作ることが決まったので、道路の東西と南北の開発がどうなるかということが、今後、大きな課題となる。乃木浜の運動公園は市内最大であり、吉田の高杉晋作も、来年の大河ドラマ「花

燃ゆ」では下関が何度も舞台として出てくる。海上自衛隊も有り、清末・王司の人口も増えているのでまとまってやっていただきたいし、将来的には予算もつきますから、算式はできていないが世帯数や広さも参考とするので、５地区がそれぞれ事業をされても大丈夫なようにしたいと考えている。

参加者　各団体の代表者は東部５地区内での交流もあるが、一般の人たちはあまり交流がない。だから王司に総合運動公園ができれば、東部５地区のスポーツ大会を行うなど、色々な取組をしていきながら東部５地区が一つにまとまるような形で進めていけると思う。

市　長　東部５地区の隣は山陽小野田市があるので、そういう面では市の重要な場所となる。賑わいの一角をこの地区で作っていただいて、これからも力を入れていきたい。菊川・豊田のラインも小月であり、海峡の賑わい拠点となるようなまちづくりを皆さんと一緒に知恵を絞っていきたい。

◎下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案）及び全体スケジュールの説明

～別紙：説明概要及び説明資料参照～

◎推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換

参加者　自治会に加入しない人が増えていると言われたが、そういう人たちに対して、市は広報の配布や連絡事項をどのようしているのか。

市担当　今、その資料を持ち合わせていないので、後日、回答させていただきたい。

参加者　推進計画（素案）の５ページにある組織体制の例には、農業又は林業が無いのでそういう団体を入れた部会を追加して欲しい。

市担当　お示ししている組織体制は一例であり、東部５地区で皆さんが話し合っていただき、必要な部会があれば、どんどん増やしていただきたい。

市担当　先ほどの自治会に加入していない人への広報物の配布はどうなっているかという質問でしたが、基本的には自治会に入っているかどうかに関わらず、自治会に配布していただくようにお願いしていることのようです。

参加者　まちづくり協議会の構成を今後どのように決めていくかは今後の協議次第だと思うが、東部５地区でやって行くことが最も好ましいのかも知れないし、各中学校単位で地区のまとまりを作って、協議会を作っていくことが良いかも知れない。中学校校区の中にも複数の自治連合会があって、直面する課題はそれぞれ違うので、協議会の設立範囲については迷っている。しかし、今までの説明の中で、東部５地区で協議会を立ち上げて欲しいという話もあったが、今後、構成する自治会などを変えても良いのか。

市担当　今後の人口減少ということを考えた時に、中学校区域でまちづくり協議会を作っていただきたい。東部５地区については、今までの歴史的なつながりでこの５地区でやってきたという経緯もあるので、そのように提案してきた。今後、東部中と木屋川中ということで分かれることも可能である。良く、話し合っていただきたい。

参加者　東部５地区で取り組んだほうが良いことも沢山あると思う。そういうものは東

部５地区で取り組むということで良いのではないかと思う。

参加者　東部５地区で一緒にやろうという事は、各自治連合会長が集まって決めており、それで市にお願いしたものである。どうして東部５地区でやるかというと、中学校校区でやると、東部中校区の小月、清末、王司、また木屋川中校区であれば王喜、吉田と分かれてしまう。我々の考え方として東部５地区は共に手を携えて行こうじゃないかという考えが基本的にあった。東部は特殊なケースとして５地区が一緒にやっていこうということになった。しかし、この形がベストであるとは思わないが、各自治連合会長の考えは一緒に頑張ってやっていこうという結論であった。

参加者　実際に東部５地区でまちづくりを行う時に、少子高齢化がネックとなり、いかにして人口を増やすことができるかが課題である。

市担当　少子高齢化問題は非常に難しい問題である。地域としても人口が少なくなっていく中で人材発掘というか、定年退職した方も地域に溶け込もうという人もいる。大学の先生をアドバイザーということで各地区に派遣するような制度を作っていきたい。

参加者　私が心配するのは、住民自治によるまちづくりと、非常に心地よい言葉ですが、やることと言えば、研修会を開くことや、会議を開いてまちづくりをやっているという程度の事ではどうしようもない。協議会ができたら東部５地区をあげて防災訓練をやるとか、具体的なアクションを起こしてもらいたい。でないと中途半端でまちづくり協議会が名前負けする危惧がある。組織が出来たらすぐに何かをやろうというアクションを起こして欲しい。

市担当　そういう積極的な意見をいただきたい。しかし、起こしていただきたいというよりは、組織を作っていただき、そういう提案をいただきたい。例えば、防災訓練や子どもたちの見守りを東部５地区で一斉にやるとか、色々な取組があろうかと思う。その内容もどうすればまちづくりが図れるのかというところも、アドバイザーからアドバイスをいただけると思う。是非一緒にやっていただきたいと思う。

参加者　東部中と木屋川中の生徒の数に非常な大きな差がある。地域ごとの特色も違っている。吉田地区は、隣接する菊川町や美祢市との連携も必要だと思う。各地区で部会を作って課題を出し合うなど、地区に住んでいないと分からない問題も沢山あると思う。そういう課題を各地区で出し合うことが、東部５地区の大きな協議会になっていくのではないか。したがって、各地区が一つの協議会を立ち上げてやっていかないと、全体で一つの協議会を立ち上げてやっていくというのは、難しいのではないか。

市担当　協議会としては、一つということで提案をいただいている。例えば、分科部会という中に吉田地区ではこういうものをやりましょう、王司地区ではこんなことをやりましょう、或いはそうじゃなくて支部活動としてこういうものをやりましょうとか、もう少し分科部会だけではなく、これとこれは吉田支部でやりましょう、そういう組織立てを今から考えていただければと思う。したがって、協議会をあえて細かく分ける必要はないと考えている。

市担当　それぞれの支部で色々な活動をして、それらの課題を持ち寄って東部５地区で助け合う。また、東部５地区全体で防災訓練や祭りなどをやってみようということもあるでしょう。そういう意味では東部地区は、支部ということかもしれません。それは実際協議会が立ち上がる時にご検討いただきたい。

参加者　今日お集まりの皆さんは、各地域で地域の特色に担った活動を積極的にされていると思うが、新たな試みとして新たな活動が増えるということになると、また負担も増えることとなると思う。例を言うと清末小学校の児童は４６８名だが、子供会に加入している児童は２０数名である。要は保護者の皆さんが自分たちの時間を削って何かをするということを大変嫌っている。ＰＴA活動における各部の役員選出もいつも紛糾している。他の団体は分からないが、ＰＴＡの保護者に限って言えば、極力何もしたくないというスタンスの方が多くおられるので、一生懸命される方との温度差がかなりある。そういう方が多いということは次の後継者も少ないということ。今よりも活動が増えるとなると役員になりたがらない人が多くなるのではないかと思う。

市担当　深刻な課題であり、全国的な問題であると思う。若い人達は自分の仕事や生活もあり地域活動に参加できない人が多い。市の職員もそうである。しかし、中には一生懸命されている方もおり、そういう人たちを見て周りも少しずつ変わっていくようにしていかないといけない。東部５地区に協議会ができて、いずれは市全体の連絡協議会のようなものも考えている。教育の場合では、コミュニティ・スクールという全体的な組織もあるが、その中でいい事例を色々と勉強し、情報共有し、少しずつ人材育成をしていかなくてはいけないと思う。活動等が負担になるというのが、話し合いをする中で同じような活動を集約するということも必要である。気分が盛り上がらない内に無理して一度に色々なことをやるもの難しいので、徐々に広げて行けば良いのではないかと思う。

参加者　まちづくりというのは、大きな意味で誰もが住みよいまちをつくりましょうという活動であると理解している。地区によって快適な環境を維持するというのも自分たちの自治の範囲に入ると思う。東部５地区で取り組む課題も色々なレベルがある。従って、東部５地区での組織、その中に小さな組織を作ることによって、その課題を解決できる組織になっていくように協議を行う、今後そんな組織を作っていければと思っている。そういう方向で、色んな課題があるという事を皆さんに理解していただいて、そういうものを解決していく形を作っていただければと思う。

市担当　その通りだと思う。今の意見の中に行政がやらなければならないという分野も含まれていると思う。地区の活動だけで解決できない問題、産業分野として担っている部分を行政と共に考え、これからの将来をどう見いだしていくかという課題がある。それぞれの地区で担っている課題も違うし、状況が変わっても、同じ認識を持つ必要のある部分も存在すると思う。個々の問題を皆さんでお話しいただいて、地区毎のやり方や共通でやるべきことはこういうやり方があるというようなところも、行政と一緒に考えて行っていただければと思う。

参加者　財政支援について、どの程度考えておられるか聞きたい。

市担当　現在のところ、議会等の予算審議もあるので金額等は決まっていない。

参加者　金額ではなくて、どういうものに対して支援しいただけるかということです。

市担当　活動補助金については、どこまで具体的なものにするか、今から検討するところである。市長は今までの補助金は補助金でという話をしたが、補助金は補助金として全体的に別で見直しをしているので、見直しがあるものとないものが出てくる。ここの祭りについては、現在、補助金が出ていないと思うが、そういった繋がりを持った補助金も今後考えて行かなければならないし、まだ具体的なものでどういうふうに補助金を出すかということは答えが難しい。

市担当　計画の中に設立準備の支援、運営に対する支援、活動に対する支援をしましょうという構成だけ決まっている。少なくともこういう方向では検討するが、金額については、例えばウエイトが運営に対するものがどれくらいかということは、これからの検討事項であるし、予算化となると議会の承認が必要となる。金額については、はっきりしたことは言えないかもしれないが、基本的な考え方は活動と運営という費用で、一定の割合で支援していくという考えである。

市担当　地区のことですが、東部５地区でという提案をさせていただいた。その話の中で色々な意見が出されました。これからどういう組織構成をしていくかは、検討していただきたい。それぞれの地区で内容が違うという意見もありましたが、一度協議会を作ってしまうと変更が難しいこともありますが、先々に変更申請のようなものもある。今のところ協議会という大きな括りとして、東部５地区ということで結論付けて良いか。

参加者　各連合会長は理解しているが、理解されていない方もおられるので東部５地区で協議会を持つという経緯を説明する。ある議員の提案もあるが、菊川町は９，０００人、豊田町は６，０００人、豊北町は１０，０００人、豊浦町は１５，０００人いる。それで東部５地区を合わせたら２６，０００人くらいの人口となる。しかし、旧４町（各総合支所）は、色々な分野の機能がある。東部５地区より人口の少ない総合支所には、図書館があり色々な建物もあるが、東部５地区には何もない。旧４町と相対して行くには、大きな組織としてやって行かなければ、東部は廃れていくと考えられる。そのため、大きく東部５地区としてまとまった方が、色々な面で行政としても力を注いでいただけるということで、東部５地区でまとまっていこうじゃないか、という経緯があった。

市担当　今説明があったように、異論がなければこの場は東部５地区で進めるということにさせていただきたい。今後、様々な意見が出るかもしれないが、その時は、また相談いただければと思う。